激闘 上野氏無念

詰め掛けた支援者の前で「いい戦いができた」と気丈に敗戦の弁を語る上野敏郎さん（中央、右は裕子夫人、左は選対本部長の清水道議。18日午後11時15分）

「いい戦いできた」

「いい戦いができた」

支援者が詰め掛けた上野敏郎氏の帯広市西12南17の選対事務所は、138票差での落選が決まると静まり返り、静寂はしばらく続いた。午後11時15分、事務所に姿を現した上野さんは「勝負には負けたが誠にさわやかな気持ち。皆さんに本当に感謝申し上げます」と、気丈に敗戦の弁を語った。

選対と連合後援会幹部、自民党道連の伊東良孝会長、喜多龍一、大谷亨両道議、自民・保守系や公明党の市議、支援者らがOCTVの開票速報を息をのんで見守った。同時執行の市議補選で連携した神谷博之さんの当選確実の一報が入ると拍手に包まれ、「ダブル当選」に向けてムードは一気に高まった。

米沢則寿さんとのデッドヒートは残票整理に持ち込まれ、相手候補に「当選確実」の報が流れると一様に肩を落とした。信じられない様子で「こんな結果いやだー」との声も漏れた。

選対本部長の清水誠一道議は「2カ月間、出たい市長より、市民が出したい市長を望んでいたが、138票差の結果になった。上野さんと奥さんはわれわれの10倍以上の動きをした。敗戦の責任を感じる」と語った。「本当にすみませんでした」と何度も頭を下げる上野氏と裕子夫人に、支持者から「そんなことないよ」とねぎらいの言葉が飛んだ。

上野さんは「市長選に立候補を決意してから、帯広・十勝に思いをはせた気持ちを、これから一市民として何ができるのかを考え、やるべきことをやっていきたい」と強調。市議補選で当選した神谷さんに対しては「政治キャリアは私以上。大きな期待を寄せたい」と語り、自身の来年の市議選出馬については否定した。

市議補選 三井氏次点 共産系など1万5000票

帯広市議補欠選（欠員1）は、会社役員の神谷博之氏（55）＝無所属・新、自民推薦＝が3万3641票を獲得して初当選を果たした。次点は自営業の三井寿果氏（36）＝同・同、民主・新党大地推薦＝で2万6630票だった。

共産党十勝地区委員会くらし・福祉対策委員長の杉野智美氏（52）＝共産・新＝は8172票、帯広地区労働組合総連合事務局次長の高田雪子氏（60）＝無所属・新＝は6547票だった。

神谷氏は故中川昭一氏の元秘書で、同時に行われた市長選の上野敏郎氏と運動。出馬表明が3月下旬と出遅れたが、旧中川後援会を中心とする保守層を急ピッチで囲い込み浮上した。

三井氏も、市長選に当選した米沢則寿氏と一体になって運動を展開。一部保守系市議や新党大地、民主・連合系が強力に後押ししたが及ばなかった。

市長選では独自候補擁立を見送った共産系が杉野氏を擁立。同党系の労組を母体とする高田氏と合わせて1万5000票弱を獲得、票の流れが分散し、保守内をある程度固めた神谷氏に有利に働いた。

帯広市議補欠選 開票結果（確定）

当	神谷博之	(55)自民推薦・新	33,641票
	三井寿果	(36)民主・大地推薦・新	26,630票
	杉野智美	(52)共産公認・新	8,172票
	高田雪子	(60)無所属・新	6,547票

神谷氏「責任を果たす」

帯広市緑ケ丘1条通の神谷博之さんの選対事務所には、午後8時すぎから小野寺秀選対本部長（道議）、故中川昭一元財務・金融相の郁子夫人、支援者ら約80人が集まり、OCTVの中継に見入った。午後10時半ごろ、当確が伝えられると「やったー」と大きな拍手が沸いた。

同10時33分、節子夫人、長男の善光さんらと事務所入りした神谷さんは、谷脇正人幹事長とガッチリと握手。「非常に大きな責任があるので、しっかりと果たしたい」と決意を語った。

連動して選挙運動を展開した市長選の上野敏郎さんを応援するため、万歳三唱は控え、だるまの目を入れることなく、小野寺本部長らと足早に上野選対へ移動。上野氏は接戦の末に落選し、神谷氏は「複雑な心境。上野さんの気持ちを受け止めて議会人として頑張りたい」と神妙な表情で語っていた。

花束を掲げて当選を喜ぶ神谷博之さん（18日午後10時35分）

投票率57・55％

3・82ポイント増 3番目の低さ

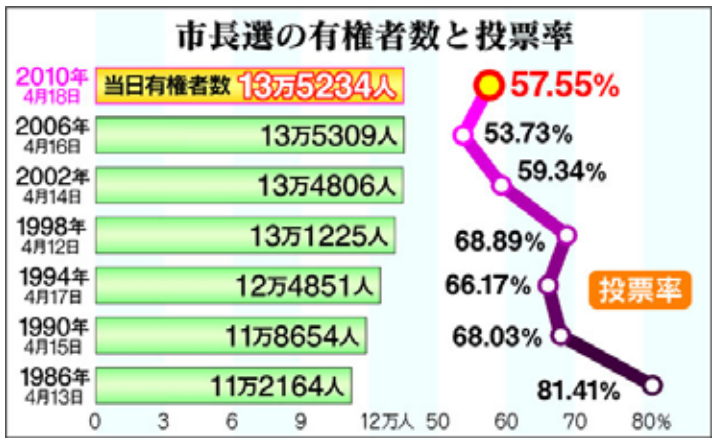
帯広市選挙管理委員会によると、市長選の投票率は57・55％で前回（53・73％）を3・82ポイント上回ったが、戦後3番目の低さとなった。市議補欠選の投票率は57・54％だった。

投票日当日の有権者数は13万5234人（前回比75人減）。男性は6万3567人（同307人減）、女性は7万1667人（同232人増）。男性の投票率は57・19％（同3・44ポイント増）、女性は57・86％（同4・15ポイント増）。

投票開始から1時間ごとの投票率（農村部の10カ所を除く）の推移を見ると、午前中はほぼ前回並みで推移。正午から若干上回り出し、午後1時からはコンスタントに2ポイント台の伸びを示した。

投票区別では、標準投票区の花園小が48・61％。最高は清川農業センターの78・71％、最低は帯広小の42・27％。農村部は4カ所で70％台だったが、川西農業者研修センターは50％台前半にとどまった。

市街地区は全41区で60％台に届かず、最高は大空会館の57・78％。15カ所は40％台だった。



私の力不足

三井さん

三井寿果さんは大勢が判明した午後10時35分、帯広市西1南22の後援会事務所に到着。小森唯永選対本部長が口火を切り、約30人の支援者の前で「一番の責任は私にある」と深々と頭を下げた。

三井さんは「力不足で迷惑をおかけした。真っ暗な夜でもいずれ朝が来る。新たな旅の出発の時だと思う。ありがとうございました」と淡々と述べた。父和久さん（59）、母わか子さん（60）も一緒に並び支援者に感謝した。来年の市議選に再挑戦するのかの問いには、「どうでしょう」と明言を避けた。

経験次に生きる

杉野さん

白樺16条東14の杉野智美さんの事務所では、支持者からのファクスで落選が伝えられると、事務所には落胆が広がった。支持者とともに結果を待った杉野さんは「ただ1人政党公認候補として正々堂々戦った経験は次に生きる」と述べ、支持者一人ひとりと握手した。

「想像以上」笑顔

高田さん

午後10時36分、他候補の当確が伝えられたが、高田雪子さんの事務所は笑顔に包まれた。政党に支えられない手作りの選挙戦を展開し、「想像以上」という6547票を獲得。支援者と牛乳で乾杯、万歳で喜びを分かち合った。来年の市議選には「やるつもりです」と力強く語った。

「私の力不足」と敗戦の弁を述べる猪股寛さん（18日午後10時ごろ）

「訴え浸透せず」猪股氏

「私の力不足に尽きる」

猪股寛さんは、帯広市西16南5の事務所で無念の表情を浮かべた。34年間の保健所勤務経験から市独自の保健所設置などを訴えたが、民意をつかむことはできなかった。「今後は『十勝住民と自治研究所』（仮称）を立ち上げ、日常的に帯広市を含む自治体問題に取り組んでいきたい」と声を振り絞った。

敗戦が濃厚となった午後10時ごろ記者会見。事務所に集まった数人の支持者も「残念」「もうちょっと票が伸びると思ったが…」とがっくり。

上野、米沢両氏に遅れて4月初旬に出馬表明。組織を持たず、街頭演説を中心に支持拡大を図った。猪股さんは「出遅れて私の政策や主張を市民に浸透させる時間がなかった。組織的な面で支持を広げる運動もできなかった」と悔しさをにじませた。